

Arcot WebFort®

クイック インストール ガイド

(Windows 用)

バージョン 6.2



455 West Maude Avenue, Sunnyvale, CA 94085

Arcot WebFort クイック インストール ガイド

バージョン 6.2

2010 年 5 月

部品番号：WF-0062-0QIG-10

Copyright © 2010 Arcot Systems, Inc. All rights reserved.

本書、および本書に記載されたソフトウェアは、ライセンスに基づいて提供され、ライセンスの条件に従ってのみ使用またはコピーすることが許可されています。本書の内容は情報提供のみを目的としています。本書は予告なしに改訂される場合があります、Arcot Systems は内容に関する責任は問われないものとします。

Arcot Systems は、本書に関して一切の保証も負わないものとします。本書は、商品性の黙示の保証、特定目的適合性の黙示の保証、または第三者の権利の不侵害の黙示の保証から構成されています（ただし、これらに限定されません）。Arcot Systems は、本書の記載の誤り、または本書の提供、記載内容の実行、あるいは使用に関連する、直接的、間接的、特例的、付带的、もしくは結果的損害について責任を負いません。

ソフトウェア ライセンスによって許可される場合を除き、Arcot Systems, Inc の書面による事前の承諾なしに、本書のいかなる部分も、いかなる形式または手段であっても、複製、検索システムへの保存、または伝送を行うことはできません。

商標

Arcot®、ArcotID®、WebFort、WebFort VAS® は、Arcot Systems, Inc の登録商標です。Arcot logo™、認証機関のキャッチ コピー、ArcotID Client™、ArcotOTP™、RegFort™、RiskFort™、SignFort™、TransFort™、および Arcot Adapter™ はすべて Arcot Systems, Inc の商標です。

他のすべての製品名または会社名は、それぞれ各社の商標です。

特許

このソフトウェアは、米国特許第 6,170,058 号、6,209,102 号および他の出願中の特許によって保護されます。

Arcot Systems, Inc., 455 West Maude Avenue, Sunnyvale, CA 94085

サードパーティ ソフトウェア

WebFort および関連コンポーネントによって使用される、すべてのサードパーティ ソフトウェアは、「Arcot WebFort 6.2 インストールおよび展開ガイド」の付録「サードパーティ製ソフトウェアのライセンス」にリストされています。

このクイック インストール ガイドは以下のトピックを網羅します。

1. システム要件の確認
2. WebFort のインストール
3. インストール後の作業の実行
4. 次に行うこと

システム要件の確認

WebFort のすべてまたは任意のコンポーネントをインストールするコンピュータは、このセクションに記載されたハードウェアおよびソフトウェア要件を満たしている必要があります。

ハードウェア要件

WebFort の最小ハードウェア要件は、以下のとおりです。

- RAM : 1 GB
- ハード ディスク : 10 GB
- プロセッサ : 2.4 GHz

ソフトウェア要件

WebFort の最小ソフトウェア要件は、以下のとおりです。

- オペレーティング システム : Windows Server 2003 Enterprise Edition または Windows Server 2008 Enterprise Edition
- サービス パック : SP2
- データベース サーバ :
 - Microsoft SQL Server 2005 Enterprise Edition または Microsoft SQL Server 2008 Enterprise Edition
 - Oracle 10g または 11g
- ディレクトリ サーバ :
 - Windows Active Directory 2003
 - SunOne Directory Server 5.2
 - SunOne Directory Server 6.1
- アプリケーション サーバ :
 - Apache Tomcat 5.5.23

- IBM WebSphere 6.1
- BEA WebLogic 10

注：使用しているアプリケーション サーバと最も互換性のある JDK のバージョンを使用してください。

WebFort のインストール

単一のシステム上に WebFort をインストールできます。または、複数のシステムにそのコンポーネントを分散できます。

たとえば、2つのシステムに WebFort コンポーネントを分散する場合、通常、1つ目のシステム上にサーバ、Administration Console、および UDS コンポーネントをインストールし、2つ目のシステム上に Java SDK およびサンプル アプリケーションをインストールできます。

注：分散インストールを実行する場合、すべてのターゲット システム上でインストーラを個別に実行し、インストールに必要なコンポーネントを選択する必要があります。

WebFort をインストールする方法

1. [Arcot] - [WebFort] - [6.2] - [Windows] - [Installer.exe] をクリックして、インストール ウィザードを実行します。
2. 画面の指示に従います。
3. [Installation Type] 画面で以下を実行します。
 - 1つのシステム上にすべての WebFort コンポーネントをインストールする場合は、[Complete] を選択します。
 - 異なるシステム上に WebFort コンポーネントを分散する場合は、[Custom] を選択し、次に、[Component Selection] 画面で必要なコンポーネントを選択します。
4. 画面上の手順に従って、インストールを完了します。

重要：インストール後の作業の実行を続行する前に、必ずシステムを再起動するようにしてください。

インストール後の作業の実行

このセクションでは、以下について説明します。

1. データ ソース名の作成
2. データベース スクリプトの実行
3. データベース セットアップの確認
4. Web アプリケーションの展開
5. Administration Console にログインし、ブートストラップする
6. WebFort サーバの起動
7. インストールの確認
8. サンプル アプリケーションの展開および使用

重要：「WebFort のインストール」の説明に従って、2 つのシステムの分散インストールを実行した場合、1 つ目のシステムではステップ [手順 1](#) ～ [手順 7](#) を実行し、2 つ目のシステムではステップ [手順 8](#) のみを実行する必要があります。

データ ソース名の作成

インストール中に提供される同じデータベースの詳細を使用して、データ ソース名を作成します。DSN を作成するには、ODBC データ ソースアドミニストレータを開き、適切な ODBC ドライバを選択してから、データベース詳細を入力します。詳細については、データベース ベンダーのドキュメントを参照してください。

データベース スクリプトの実行

WebFort データベース スキーマをシードする方法

1. 以下の適切なデータベース ディレクトリ (`mssql` または `oracle`) に移動します。

```
<install_location>\Arcot  
Systems\dbscripts\
```
2. 以下の順序でスクリプトを実行します。
 - `arcot-db-config-common-1.0.sql`
 - `arcot-db-config-for-webfort-6.2.sql`

データベース セットアップの確認

WebFort データベースが正しくセットアップされたかどうか確認する方法

1. **SYSDBA** 権限を持つユーザで WebFort データベースにログインします。
2. 以下のクエリを実行します。

```
SELECT SERVERNAME, VERSION FROM  
ARRFSEVERERS;
```

以下の出力を参照してください。

```
SERVERNAME  VERSION  
-----  
WebFort     6.2
```

3. データベース コンソールからログアウトします。

Web アプリケーションの展開

ユーザ データ サービス (UDS) および Administration Console は Web ベースの WebFort コンポーネントで、サポートされているすべてのアプリケーション サーバ上に展開できます。

- Apache Tomcat
- IBM WebSphere
- BEA WebLogic

これらのアプリケーションを展開するための重要なステップは、次のとおりです。

1. [アプリケーション サーバの準備](#)
2. [UDS の展開および展開の確認](#)
3. [Administration Console の展開、および展開の確認](#)

アプリケーション サーバの準備

Apache Tomcat の場合：

Apache Tomcat で Arcot 専用のファイルをコピーする方法

1. `ArcotAccessKeyProvider.dll` を `%JAVA_HOME%\jre\bin/` にコピーします。
2. `arcot-crypto-util.jar` を `%JAVA_HOME%\jre\lib\ext/` にコピーします。

3. アプリケーション サーバを再起動します。

IBM WebSphere の場合：

Arcot 専用ファイルをコピーする方法

1. WebSphere Administration Console にログインします。
2. **[Environment] - [Shared Libraries]** をクリックします。
 - a. **[Scope]** ドロップダウンから、有効な可視性範囲を選択します。範囲には、アプリケーションを展開するターゲット サーバまたはノードを含める必要があります。
 - b. **[New]** をクリックします。
 - c. ArcotJNI などの名前を入力します。
 - d. クラスパスを指定します。(このパスは、`arcot-crypto-util.jar` が存在する場所を指す必要があります、ファイル名が含まれている必要があります。たとえば、`C:\Program Files\Arcot Systems\ext\arcot-crypto-util.jar` などです。)
 - e. **JNI ライブラリ** パスを入力します。(このパスは、`ArcotAccessKeyProvider.dll` が存在する場所を指している必要があります。)
3. **[Apply]** をクリックして、変更を保存します。
4. サーバレベルのクラス ロードを設定します。
 - a. **[Servers] - [Application Servers]** をクリックします。
 - b. 設定が実行されるサーバの設定ページにアクセスします。
 - c. **[Java and Process Management] - [Class Loader]** をクリックします。
 - d. **[New]** をクリックします。
 - e. **[default Classes loaded with parent class loader first]** を選択し、**[OK]** をクリックします。
 - f. 自動生成されたクラス ロード ID をクリックします。
 - g. クラス ロードの **[Configuration]** ページで、**[Shared Library References]** をクリックします。

- h. **[Add] - [ArcotJNI] - [Apply]** をクリックします。
- i. 変更内容を保存します。

5. `ArcotAccessKeyProvider.dll` を `<JAVA_HOME_WebSphere>/jre/bin/` にコピーします。
6. WebSphere を再起動します。

BEA WebLogic の場合：

WebLogic サーバに Arcot 専用ファイルをコピーする方法

1. `ArcotAccessKeyProvider.dll` を WebLogic の `<JAVA_HOME_WebLogic>/jre/bin/` にコピーします。
2. `arcot-crypto-util.jar` を WebLogic の `<JAVA_HOME_WebLogic>/jre/lib/ext/` にコピーします。

注：必ず WebLogic によって使用される適切な `<JAVA_HOME>` を使用してください。

3. WebLogic Administration Console にログインします。
4. **[Deployments]** に移動します。
5. **[Lock and Edit]** オプションを有効にします。
6. **[Install]** をクリックし、`arcot-crypto-util.jar` が含まれるディレクトリに移動します。
7. **[Next]** をクリックし、アプリケーション インストール アシスタントを開きます。
8. **[Next]** をクリックして、**[Summary]** ページを表示します。
9. **[Finish]** をクリックします。
10. 変更を有効にします。
11. サーバを再起動します。

UDS の展開および展開の確認

アプリケーション サーバに UDS WAR ファイルを展開する方法

1. アプリケーション サーバに `arcotuds.war` を展開します。このファイルは以下から入手できます。
`<install_location>\Arcot Systems\java\webapps\`

注：展開手順は、使用しているアプリケーションサーバに依存します。詳細な手順については、アプリケーションサーバベンダーのドキュメントを参照してください。

2. (WebSphere のみ) アプリケーションファイルが更新されると、UDS クラスを再ロードするように設定します。
 - a. [Application] - [Enterprise Applications] に移動し、UDS 設定ページにアクセスします。
 - b. [Class loader order] で、[Classes loaded with local class loader first (parent last)] オプションを選択します。
 - c. [WAR class loader policy] で、[Single class loader for application] オプションを選択します。
 - d. [Apply] をクリックして、変更を保存します。
3. アプリケーションサーバを再起動します。
4. UDS が正しく開始したかどうか確認する方法
 - a. 次のディレクトリに移動します。
`<install_location>\Arcot Systems\logs\`
 - b. 任意のエディタで `arcotuds.log` ファイルを開き、以下の行を見つけます。
 - UDS Initialized successfully
 - Starting Arcot User Data Service (Version: 1.0.8)

これらの行は、UDS が正常に展開されたことを示しています。また、ログファイルには FATAL および WARNING のメッセージが含まれていないことを確認することをお勧めします。

Administration Console の展開、および展開の確認

アプリケーションサーバに Administration Console の WAR ファイルを展開する方法

1. アプリケーションサーバに `arcotuds.war` を展開します。このファイルは以下から入手できます。

```
<install_location>\Arcot  
Systems\java\webapps\
```

注：展開手順は、使用しているアプリケーションサーバに依存します。詳細な手順については、アプリケーションサーバベンダーのドキュメントを参照してください。

2. アプリケーションサーバを再起動します。
3. コンソールが正しく起動したかどうか確認する方法
 - a. 次のディレクトリに移動します。
`<install_location>\Arcot Systems\logs\`
 - b. 任意のエディタで `arcotadmin.log` を開き、以下の行を見つけます。
 - Arcot Administration Console v1.0.8
 - Arcot Administration Console Configured Successfully

これらの行は、コンソールが正常に展開されたことを示しています。また、ログファイルには FATAL および WARNING のメッセージが含まれていないことを確認することをお勧めします。

Administration Console にログインし、ブートストラップする

1. Web ブラウザウィンドウで、Administration Console を起動します。以下が Administration Console の URL です。

```
http://<host>:<port>/arcotadmin/  
masteradminlogin.htm
```

ここで、`host` および `port` は、コンソールを展開したアプリケーションサーバのものである必要があります。

2. デフォルトの MA クレデンシャルを使用してログインします。
 - ユーザ名 : **masteradmin**
 - パスワード : **master1234!**
3. [Begin] をクリックして、ブートストラッププロセスを開始します。
4. [Old Password]、[New Password]、[Confirm Password] を入力し、[Next] をクリックします。
5. UDS 設定パラメータを指定します。デフォルトをそのまま使用できます。

- デフォルトの組織の **[Display Name]** および **[Authentication Mechanism]** を指定し、**[Next]** をクリックします。
- [Continue]** をクリックして、ブートストラッププロセスを完了します。

WebFort サーバの起動

WebFort サーバを起動する方法

- デスクトップ ウィンドウ上の **[スタート]** ボタンをクリックします。
- [設定]** - **[コントロール パネル]** - **[管理ツール]** - **[サービス]** に移動します。
- [Arcot WebFort Service]** を見つけてダブルクリックします。
- サービスのウィンドウで、**[開始]** をクリックします。

インストールの確認

インストールを確認する方法

- 次のディレクトリに移動します。
`<install_location>\Arcot Systems\logs\`
- 任意のエディタで `arcotwebfortstartup.log` を開き、以下の行を見つけます。
 - INSTANCE_VER.....: [6.2]
 - Arcot WebFort Authentication Service READY.

また、ログ ファイルには FATAL および WARNING のメッセージが含まれていないことを確認することをお勧めします。

サンプル アプリケーションの展開および使用

サンプル アプリケーションを展開する方法

- [設定]** - **[コントロール パネル]** - **[管理ツール]** - **[サービス]** にナビゲートします。
- アプリケーション サーバ サービスを停止します。
- 以下の場所から `webfort-6.2-sample-application.war` を展開します。

```
<install_location>\Arcot
Systems\samples\java
```

注: また、パッケージには `webfort-6.2-sample-application.war` もありますが、上記の場所のみからサンプル アプリケーション ファイルを展開することをお勧めします。

- 以下の URL を指定して、サンプル アプリケーションにアクセスします。
`http://<host>:<port>/webfort-6.2-sample-application/`
- (分散インストールのみ) サンプル アプリケーションを、WebFort サーバと通信するように設定します。
 - [Setup]** - **[Server Connectivity]** リンクをクリックします。
 - 以下のパラメータの値を設定します。
 - IP アドレス
 - ポート
 - [Set Up]** をクリックして、接続を保存します。
- アプリケーション サーバを再起動します。
- 画面の指示に従い、次の手順を実行します。
 - WebFort データベースでユーザを作成します。
 - ユーザのクレデンシャルを作成します。
 - 認証を実行します。

次に行うこと

インストール後のタスクを完了した後は、WebFort によって提供される Java アプリケーション プログラミング インターフェース (API) および Web サービスを設定する必要があります。

- [認証 Java SDK の設定](#)
- [発行 Java SDK の構成](#)
- [Web サービスの設定](#)

認証 Java SDK の設定

WebFort 認証 Java SDK を設定する方法

1. <install_location>\Arcot Systems\sdk\java\lib から、JAR ファイルを <APP_SERVER_HOME> ディレクトリの適切な場所にコピーします。(たとえば、Apache Tomcat では、この場所は <APP_HOME>/WEB-INF/lib/ です。)
 - arcot/arcot-pool.jar
 - arcot/arcot-webfort-common.jar
 - arcot/arcot-webfort-authentication.jar
 - external/bcprov-jdk14-139.jar
 - external/commons-httpclient-3.1.jar
 - external/commons-lang-2.4.jar
 - external/commons-pool-1.4.jar
 - external/log4j-1.2.9.jar
2. <install_location>\Arcot Systems\sdk\java\properties\webfort.authentication.properties ファイルを編集し、以下を設定します。
 - authentication.host.1 : WebFort サーバのホスト名または IP アドレス。
 - authentication.port.1 : ネイティブ認証プロトコル用に設定されたポート番号。デフォルト値は 9742 です。

- external/axis2-kernel-1.4.jar
- external/backport-util-concurrent-2.2.jar
- external/bcprov-jdk14-139.jar
- external/commons-codec-1.3.jar
- external/commons-collections-3.1.jar
- external/commons-httpclient-3.1.jar
- external/commons-lang-2.4.jar
- external/commons-logging-1.1.jar
- external/commons-pool-1.4.jar
- external/geronimo-jms_1.1_spec-1.1.jar
- external/log4j-1.2.9.jar
- external/neethi-2.0.jar
- external/stax-api-1.0.1.jar
- external/wsd14j-1.6.2.jar
- external/wstx-asl-3.2.0.jar
- external/XmlSchema-1.2.jar

2. <install_location>\Arcot Systems\sdk\java\properties\webfort.issuance.properties ファイルを設定して、以下を設定します。
 - issuance.host.1 : WebFort サーバのホスト名または IP アドレス。
 - issuance.port.1 : トランザクション Web サービス プロトコル用に設定されたポート番号。デフォルト値は 9744 です。

発行 Java SDK の構成

WebFort 発行 Java SDK を設定する方法

1. <install_location>\Arcot Systems\sdk\java\lib から、JAR ファイルを <APP_SERVER_HOME> ディレクトリの適切な場所にコピーします。(たとえば、Apache Tomcat では、この場所は <APP_HOME>/WEB-INF/lib/ です。)
 - arcot/arcot-pool.jar
 - arcot/arcot-webfort-common.jar
 - arcot/arcot-webfort-issuance.jar
 - external/activation-1.1.jar
 - external/axiom-api-1.2.7.jar
 - external/axiom-impl-1.2.7.jar
 - external/axis2-adb-1.4.jar
 - external/axis2-java2wsdl-1.4.jar

Web サービスの設定

WebFort Web サービスを使用している場合、以下の手順に従います。

1. アプリケーション サーバを停止します。
2. 次のディレクトリに移動します。
`<install_location>\Arcot Systems\wsdls\webfort\`
3. 以下の WSDL を使用して、各クライアントのコードを生成します。
 - [ArcotWebFortAuthSvc.wsdl](#) : 認証 Web サービス用。
 - [ArcotWebFortIssuanceSvc.wsdl](#) : 発行 Web サービス用。
4. アプリケーション サーバを再起動します。